

第127回 令和7年11月19日（水）

「教員をめざすことについて。」

ここ何年か、小学校でも中学校でも「なりたい職業の第1位」は教員が続いている。ありがたいことですが、現実は報道でもご存じのとおり教員不足が深刻な事態となっています。

私も校長として教員が足りないことを肌で感じています。

人気の職業なのに倍率が上がらない理由は何なのか。いろいろな原因があると思いますが、私なりの考え方や改善策を書いてみます。

まず単純に小学校、中学校では身近な仕事として教師がいて、他の仕事をあまりわかっていないということがあります。昔はここに「プロ野球選手」や「Jリーガー」などがきたのかもしれません、いまはリトルリーグなどがさかんで自分の立ち位置が小さいころからわかってしまうのかもしれません。

大学にいる間に教員を避けるようになってしまうのは採用試験に原因があるかもしれません。合格してからイメージと違ったと言って退職する人もいるので、もう少し教育実習の位置づけを変えてみても良いのかもしれませんね。長期間にしたうえで、これを1次試験にするとかはどうでしょうか。医師も研修期間がありますが、教師にもそのような時間があっても良いかもしれません。

ブラックな職場と言うイメージが先行している部分も大きいかもしれません。ただどの職業でも仕事の厳しさは必ずあります。福利厚生が充実していて楽に見えても成果を出さなければ解雇されてしまうような企業も数多くあります。私は学校だけが突出して職場環境が悪いとは思っていません。もちろん改善すべき点はまだまだありますが、それはどの職場でも同じだと思っています。

なりたい職業の第1位に教員を挙げている子どもは自分の周りにいる教師がとても良いと感じているのだと思います。そのような教師は働き甲斐をもって職責を全うしているはずです。教員がなりたい職業の第1位になるということはそういう教師が多いということだと思います。

教育はすぐには結果が見えない職業です。自分の育てた生徒が花開くのは10年、20年たってからですし、それが自分の蒔いた種なのかどうかはわかりません。それでも日本を支える最も大事な仕事の一つであることは確かです。

教育の世界に興味のある方はいつでもお尋ねください。何がこの仕事の素晴らしいところなのか、できる限りお話しします。